

飲酒運転させない TOKYO キャンペーン (2018)

撮影: JD 共済



書道作品のメッセージに見入る来場者(左の写真)。荷物の様子から旅行中のようにです。会場が JR 新宿駅西口という場所柄、このように、地元の方だけでなく近郊にお住まいの方や、地方からたまたま通りかかって立ち寄られた方も多かったことでしょう。地元にも子どもたちのメッセージと想いをもち帰って、「飲酒運転させない環境」を拡げてくださることを願います。



東京都へデータでご提供した作品たちが、丁寧に展示されています。





「いのちのミュージアム」から派遣された人型ボードのメッセンジャーが、書道作品と並んで、飲酒運転根絶といのちの大切さを伝えます。胸元に書かれたご遺族のメッセージを真剣に読む来場者(左の写真)と、酔った状態の視界を体験する「酔酩ゴーグル」を試す来場者(右の写真)。このゴーグルを装着すると足元がゆがんで見え、思うように物を触ることもまっすぐ歩くこともできません。飲酒運転がいかに危険な行為であるかがよくわかります。



主催者の東京都の開会あいさつと、共催の新宿区と新宿警察署、来賓の方々のあいさつで始まったステージイベント。ゲストのタレント「パッキンマッくん」が、警視庁のマスコット「ピーポくん」とともに、来場者に向けて、飲酒運転根絶を主に交通安全を訴えました。

